

9.

鉄のモニュメント 万博お祭り広場 大屋根 - 万博記念公園点描 -

大阪万国博覧会 お祭り広場を支えた大屋根 覚えていますか

by M. Nakanishi 2003.8.20.



吹田 万博公園にある民族学博物館へ行く道はかつての大阪万国博覧会が開かれた心臓部 太陽の塔が立つ「お祭り広場」があるのですが、覚えていますか・・・そのお祭り広場の大屋根を支えたパイプ構造の一部が今も健在で、保存されているのをつい最近みつけました。

僕にとっては「鉄鋼材料・溶接技術」の道に入る第一歩。日本がそして鉄鋼業が高度成長の大発展を遂げるスタートでもありました。

そういう意味では この大阪万博公園特にお祭り広場は日本鉄鋼業発展のモニュメント・鉄の故郷でもある。

大阪万博のメイン会場 今は静かな自然公園になっていて、その中心にシンボル「太陽の塔」が緑の丘の上に今も建ち、その後ろに大きな広場がある。かつてのお祭り広場があった一帯で、ここには全体を覆う大きな大屋根が掛けられ、その大屋根の中心部を貫いて太陽の塔が立っていた。



今はもう大屋根が取り壊され想像だに出来ない。

今は太陽の塔の後ろ側が屋根のない広いイベント広場になっている。その一番北西の隅にかつてお祭広場の一角に大屋根を支えたパイプ構造の一部がモニュメントとして保存されているのをつい最近 民博への道すがら知りました。

万博の大屋根が一部保存されているなど思いも寄らぬことでした。



万博公園 自然園の中にある「お祭り広場 大屋根のモニュメント」

大阪万博の準備が始まったのは、会社に入って溶接の勉強を始めたすぐの頃で このパイプの現地溶接の follow のため、使い走り何度か通ったなつかしい構造物。

パイプでアングルを組み、ボールジョイントでとめ、これを連続して大屋根を作るユニークな構造で広い広場に極端に柱を少なくした当時では本当に斬新な巨大構造物。

鋼の厚板を管状にしてシーム溶接されたパイプが 1900 本強 ボールジョイントとしてこれらのパイプをとめる鉄球が約 100 個。総重量約 6000 トンの鋼材が使われた。

これらを使って 高さ約 40m の位置に長さ約 290m 幅約 110m 厚さ約 7m の大屋根が架けられ、この大屋根そのものが、日本の成長を示すモニュメントであった。

僕の会社がパイプを製造・現地溶接も一部担当し、当時 その溶接部品質の設計・施工について information 討論が沸騰したことなどをこの大屋根建設当時の喧騒と熱気の時代や仲間と共になつかしく思い出します。

モニュメントになっても やっぱり溶接部分は気になって 手をあてていました。

そうゆう意味で この万博公園のお祭り広場の鉄のモニュメントも僕にとっては鉄の故郷です。日本の近代製鉄発展のモニュメント。

現代の和鉄の道として抜きに出来ない場所である。

まもなく 取り壊されると聞きましたが、僕らの年代にとっては 本当に懐かしい万博。

あのパビリオンが並んだ万博会場 今は木々に包まれた万博記念公園として整備され、また、この記念公園の中心を東西にモノレールが貫き、そのセンターに正面ゲイト駅〔万博公園駅〕がある。この駅の北側がかつてのお祭り広場一帯で、森の中に太陽の塔がそびえている。



お祭り広場 大屋根のモニュメント



広告や雑多なビルが排除された静かな自然公園となっている。民族学博物館も児童文学館 民芸館 現代美術館などと共に林の中に点在している。この7・8月には「日本庭園」の蓮池の「蓮」が満開となり、朝早くからカメラ愛好家の格好の場所としてにぎわった。

また駅の南側一帯には遊園地「万博ランド」も健在。今はこの一角に「お化け屋敷」も開設され、子供連や若者でにぎわっている。



： 現在の万博記念公園 2003年 8月 と 日本庭園の蓮

大阪近くにいましたが、民博通いを始めるまで、こんなにゆっくりと散策が楽しめる公園が広がっているなど思いも寄らぬ事でした。先日もさわやかな晴れの日 弁当は持っているし、日中民博の中にいるのはもったいないと日中 日本庭園の丘の上で昼寝。

気持のよい散策 昼寝 そして 民博・民芸館・美術館へも 本当にゆったり一日を楽しめる場所となりました。

難点は近いわりに大阪モノレール・電車・バスと乗り継がねばならず、交通費が高いこと。